

【一般口演4】 第18席

金沢文庫本『資生経』について

東京 篠原 孝市

12世紀後半から末にかけて成立した『鍼灸資生経』は、早くにわが国にもたらされ、『千金方』の鍼灸部分とともに、わが国近世の鍼灸、とりわけ灸法の方面に大きな影響を及ぼした鍼灸書である。また、中国鍼灸医学史の面では、南宋から元にかけての鍼灸医学の鍼灸交替期に位置する重要な文献である。

本書の現存最古の版本は、現在までのところ、北京図書館所蔵の元・天曆3年（1330）葉日増広勤書堂刊本といわれる。ただし、それ以前、1220～1307年の間にも、南宋版2種、元版1種の刊行があったことが知られている。ただし、それら版本の現存は未だ確認されていない。

ところで、わが国及び台湾には金沢文庫所蔵本『資生経』を伝写したとする抄本、あるいは金沢文庫本による校勘の結果を記した資料などが若干部存在する。金沢文庫はわが国の13世紀後半に北条氏によって設立されもので、その蔵書は概ね13世紀末にかけて形成されたとされる。よって、『資生経』の場合、その版本は、前記の元・天曆3年刊本以前のそれである可能性がある。現在、金沢文庫旧蔵の『資生経』原本は所在不明である。したがって、これらの伝写資料は、金沢文庫本の内容をうかがう唯一の手段である。このたびは、日本に現存する『資生経』の〈金沢文庫本〉関係資料について調査し、現行諸本との比較検討を行ったので、それを報告して『資生経』研究の一助とする。